

「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

企業の社会貢献活動としての
「森と都市の交流プログラム」開発

平成23年2月4日(火)

NPO法人木の家だいすきの会
代表理事 鈴木進

綾町の課題、都市部の企業動向

1. 綾町の課題・ニーズ

- ・照葉樹林の復元・再生
- ・都市部との交流拡大による地域の振興
地域資源(有機農業、スローフード、工芸、照葉樹林など)を生かしたロングステイ、二地域居住

2. 都市部の企業動向

- ・森林保全への関心が徐々に高まっている
- ・企業のCSR活動として環境保全活動

事業の目的

企業CSR活動としての森林地域と企業の交流

交流の2つの柱

- 森林保全のボランティア活動
- 地域資源を活用した交流活動
グリーンツーリズムの可能性の追及

活動の概要

●平成20年度

- ・事前協議 : 2回(県庁・綾町、7月、8月)
- ・森と都市の交流CSR研究会: 3回(東京、9月、10月、12月)
- ・綾町地域づくりワーキング会議: 3回(綾町、8月、10月、11月)
- ・綾町体験交流実験プロジェクト:
11月14日～16日 参加者: 首都圏から10名、宮崎市内から7名
- ・報告会&懇話会: 2月10日

●平成21年度

- ・森と都市の交流CSR研究会: 2回(東京、1月、2月)
- ・宮崎県カーボンオフセット制度に関する県協議: 6～9月
- ・綾町自治公民館組織との協力関係の構築と交流プログラム検討
6月12月 参加者: 首都圏から7名、宮崎市内から7名
- ・綾町体験交流実験プロジェクト: 11月27日～29日
- ・西米良村議会、町役場、村民、森林組合関係者との意見交換: 11月

●平成22年度

- ・宮崎県北郷町における森林整備と地域交流プログラム開発
医療機器メーカーが、宮崎県企業の森制度の活用、10年契約
1月29日植樹祭、平成23年度以降地域交流プログラムづくり

綾町体験交流プロジェクト

1. ねらい

● 首都圏からの参加者

- ・地域の実態の把握
- ・地域のニーズや住民の考え方の把握
- ・企業や都市住民としてできることを考える

● 地元参加者、団体にとって

- ・企業の取り組みスタンスの理解
- ・地元として何が可能か考える契機とする

● 参加者すべてにとって

- ・他人事から身近なことへ
- ・それぞれの立場から、地域振興、地域活動、企業活動継続の接点をさぐる

お話しと昼食会

お話し：郷田美紀子さん「綾の森の保全活動」

昼食会：綾の有機野菜を使った薬膳料理



有機農業のお話しと農業体験

有機農業のお話し: 早川ゆりさん(早川農苑)

有機農業体験: 「ねぎ」と「にんじん」の収穫



収穫した野菜を使い交流会

- 杣道地区の皆さんとの交流会 約50名参加、杣道地区公民館にて



照葉樹林再生のための間伐体験

説明:九州森林管理局、てるはの森の会

場所:川中キャンプ場周辺の森



照葉樹林ガイドツアー

- ガイドボランティアツアー
- 巨樹の森の散策



照葉樹林ガイドツアー

巨樹の森の圧倒的な存在感



参加者反省会

首都圏からの参加者で意見交換



有機農業推進大会・農業祭に参加



綾町の照葉樹林保全活動

企業社会貢献の場に 間伐など体験ツアー好評

綾町は、近年関心が高まってきている企業の社会貢献活動の場として、町内各地の照葉樹林保全活動などを活用して、企業に社会貢献の場を提供している。町には、都市部の住民との交流や移住促進のきっかけとなり、企業にとっても自然的に知名度を高め、町での活動に



木の復元へ、スギの間伐作業を体験する参加者

「おのり」や「おのり」が区別される。この「おのり」が、町内各地の照葉樹林保全活動の場として、町内各地の照葉樹林保全活動などを活用して、企業に社会貢献の場を提供している。町には、都市部の住民との交流や移住促進のきっかけとなり、企業にとっても自然的に知名度を高め、町での活動に

「おのり」や「おのり」が区別される。この「おのり」が、町内各地の照葉樹林保全活動の場として、町内各地の照葉樹林保全活動などを活用して、企業に社会貢献の場を提供している。町には、都市部の住民との交流や移住促進のきっかけとなり、企業にとっても自然的に知名度を高め、町での活動に



「おのり」や「おのり」が区別される。この「おのり」が、町内各地の照葉樹林保全活動の場として、町内各地の照葉樹林保全活動などを活用して、企業に社会貢献の場を提供している。町には、都市部の住民との交流や移住促進のきっかけとなり、企業にとっても自然的に知名度を高め、町での活動に



「おのり」や「おのり」が区別される。この「おのり」が、町内各地の照葉樹林保全活動の場として、町内各地の照葉樹林保全活動などを活用して、企業に社会貢献の場を提供している。町には、都市部の住民との交流や移住促進のきっかけとなり、企業にとっても自然的に知名度を高め、町での活動に



「おのり」や「おのり」が区別される。この「おのり」が、町内各地の照葉樹林保全活動の場として、町内各地の照葉樹林保全活動などを活用して、企業に社会貢献の場を提供している。町には、都市部の住民との交流や移住促進のきっかけとなり、企業にとっても自然的に知名度を高め、町での活動に

「おのり」や「おのり」が区別される。この「おのり」が、町内各地の照葉樹林保全活動の場として、町内各地の照葉樹林保全活動などを活用して、企業に社会貢献の場を提供している。町には、都市部の住民との交流や移住促進のきっかけとなり、企業にとっても自然的に知名度を高め、町での活動に

「おのり」や「おのり」が区別される。この「おのり」が、町内各地の照葉樹林保全活動の場として、町内各地の照葉樹林保全活動などを活用して、企業に社会貢献の場を提供している。町には、都市部の住民との交流や移住促進のきっかけとなり、企業にとっても自然的に知名度を高め、町での活動に

中野町 田野町音頭を一新 振り付けも若者向けに

宮崎市田野町の田野中学校（東園二副校長、三百三十二人）は、町内に古くから伝わる「田野町音頭」を若者向けにアレンジした。生徒たちが振り付けもリニューアルして十月にあった町の体育大会などで披露し、話題になっていった。



「おのり」や「おのり」が区別される。この「おのり」が、町内各地の照葉樹林保全活動の場として、町内各地の照葉樹林保全活動などを活用して、企業に社会貢献の場を提供している。町には、都市部の住民との交流や移住促進のきっかけとなり、企業にとっても自然的に知名度を高め、町での活動に

宮崎市の「おのり」や「おのり」が区別される。この「おのり」が、町内各地の照葉樹林保全活動の場として、町内各地の照葉樹林保全活動などを活用して、企業に社会貢献の場を提供している。町には、都市部の住民との交流や移住促進のきっかけとなり、企業にとっても自然的に知名度を高め、町での活動に

参加企業の概要

● 交流事業に参加した企業 6社

- ・A社: 本業がCSR活動を軸としたコンサルティング
- ・B社: 証券、本社CSR室より宮崎支店に連絡、7名現地参加
- ・C社: 信託銀行(個人参加)、不動産投資と森林保全の連携に関心
- ・D社: 本業がCSR活動を軸としたコンサルティング
- ・E社: 宮崎すぎだらけクラブ会員
- ・F社: 旅行代理店(個人参加)、ロングステイに関心

● 研究会参加企業 5社

建設、コンサルティング、旅行社、スポーツ用品専門店、百貨店

● 研究会不参加 6社

D証券のケース

本社CSR室(東京)

- ・CSR研究会参加
- ・交流事業の情報をメールで支店に流す



宮崎支店

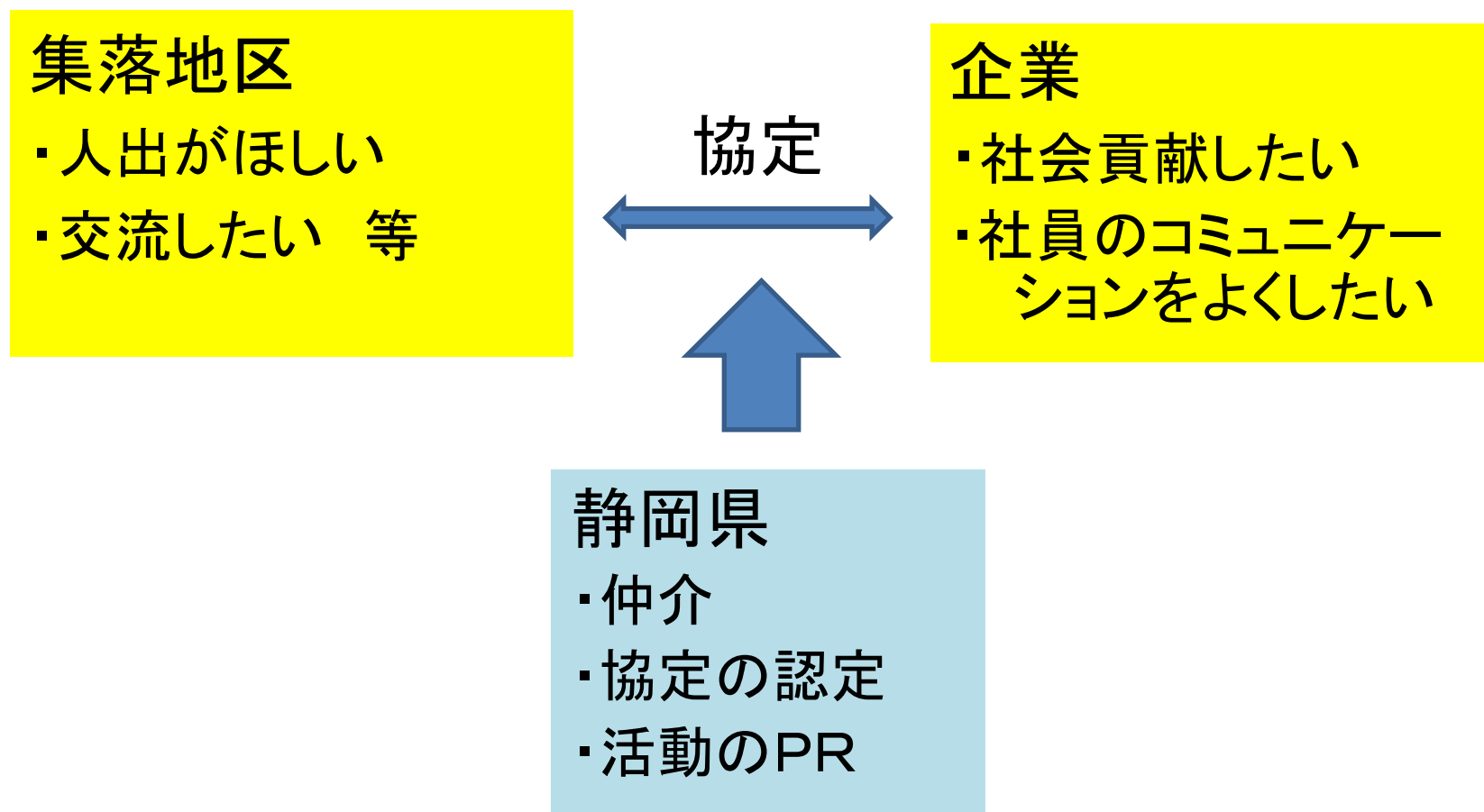
- ・支店長以下社員7名が参加(杉の伐採、巨樹の森散策、交流会へ参加)
- ・これまで地域活動に関わった人はなかったが、参加者から再度参加の意向



今回はたまたま参加、継続の仕組みは？

仕組みづくり事例：一社一村静岡運動

静岡県：中間支援組織として機能



企業側の仕組みづくりの事例

アストラゼネカの棚田保全活動

本社：ロンドン

世界企業ランキング(ニューズ
ウィーク日本版)、CSR活動
部門2005～2007年第1位

- ・社会の一員という意識が高まる
- ・社内でのコミュニケーションや
チームワークが向上する

日本法人

CSRマネジメント部
・方針策定
全国一斉棚田保全

支社・営業所

● **キャプテン制度**
全国約50ヶ所
・立候補
・実施計画作成、調整窓口

集落

・棚田保全の人出がほしい



相談

キャプテンの研修



調整



中間支援機能

東京ボランティア
市民活動センター

連携

NPO棚田ネットワーク

・都市と農村の相互理解
・循環型社会の創造

CSRの活動分野

地域側の発想

フィールド1 企業の社会貢献活動

例) 照葉樹林の再生活動

フィールド2 従業員の福利厚生

例) 巨樹の森の散策、森林セラピー、地元との交流

フィールド3 ビジネスパートナーとして

例) 環境ファンド、グリーンコンシューム、カーボンオフセット

企業側の発想

CSR 4つの責任・5つのコア・ステークホルダー

CSRのキーワード

- サステナビリティ
- トリプルボトムライン
- ステークホルダーエンゲージメント

	法的責任	経済的責任	倫理的責任	社会貢献的責任
消費者				拡大・複合化
取引先				
従業員				
株主・投資家				
地域社会 地球環境	拡大・複合化			

出典：日本経営倫理学会 CSRイニシアチブの枠組み

綾町での展開 仮説1

社会貢献活動を軸としたプログラム

●プログラム開発の方向

- ◆「照葉樹林の再生活動」 + 「地元交流」
- ◆「森林セラピー」 + 「地元交流」

●対象

- ◆県内に本支店のある民間企業

●継続プログラム化の課題

- ◆地元受け入れ体制
- ◆企業内の推進体制構築

森林再生プログラム＋地元交流



森林セラピー＋地元交流

綾町での展開 仮説2

ロングステイ型・ニ地域居住型プログラム開発

●プログラム開発の方向

- ◆農作業の手伝い＋休暇(ワーキングホリデー) 数週間～1月
- ◆スローフードをテーマとした、レクレーション型、研修型農業体験＋食育体験
1週間程度

* 県内の中山間地域の場合、林業の手伝いもありうる

●対象

- ◆ワーキングホリデー型: 若者
- ◆スローフード型: 定年前後の方(団塊の世代)

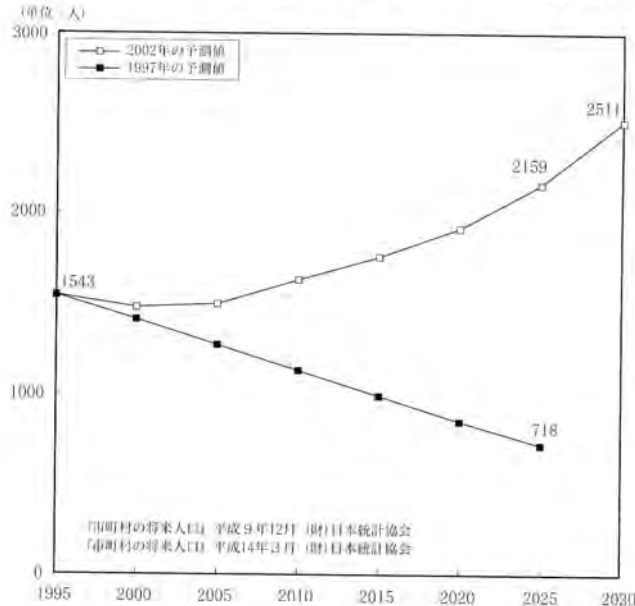
●継続プログラム化の課題

- ◆マーケティングと募集の仕組み
- ◆ターゲットに合わせたプログラム開発
- ◆モニタリングツアー
- ◆ビジネスモデル開発
- ◆地元と企業の連携の仕組みづくり

宮崎県西米良村のワーキングホリデー



(図表0-2) 2030年には1.6倍に増えると予測されている西米良村の将来人口



ずっと西米良で働かないか

農林業が中心の山村で、ワーキングホリデーの女性志願者が続々と訪れている。山村で働く女性志願者が続々と訪れている。山村で働く女性志願者が続々と訪れている。

ワーキングホリデーが縁



第2のカップル誕生期待

ワーキングホリデーが縁で、山村で働く女性志願者が続々と訪れている。山村で働く女性志願者が続々と訪れている。

大口を開けて喜びを発散させる新郎と美しい花嫁『宮崎日日新聞』平成13年4月15日(左)。1年半後に授かった玉のような男の子

浜砂と村民に因まれ結婚



地域資源の活用



街並み、遊休家屋、文化



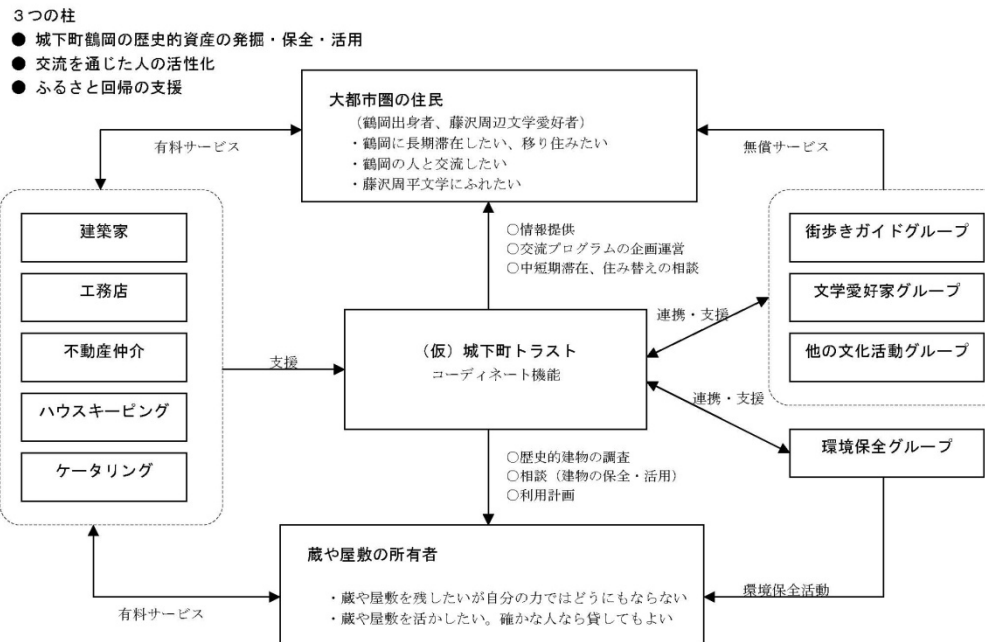
空家を活用した短中期滞在型住宅の事例

- 平成15年7月～8月：首都圏在住者向け短中期滞在型住宅の試行実験
- 平成16年9月～平成17年1月：Sターン事業(旅の宿皓鶴邸)の本格運用

■ NPO鶴岡城下町トラストの立ち上げ

■ (仮)城下町トラストの展開イメージ

2003.04.18



多様な主体との協働の成果

- 活動の特徴

森林保全とグリーンツーリズム × 企業CSR活動

- 関係する主体

てるはの森の会

綾の照葉樹林プロジェクト推進協議会

宮崎県(東京事務所、中山間地域対策室、環境森林課)

綾町(産業観光課、企画財政課)

綾町地域づくりワーキング会議

杣道地区住民の方々

早川農苑

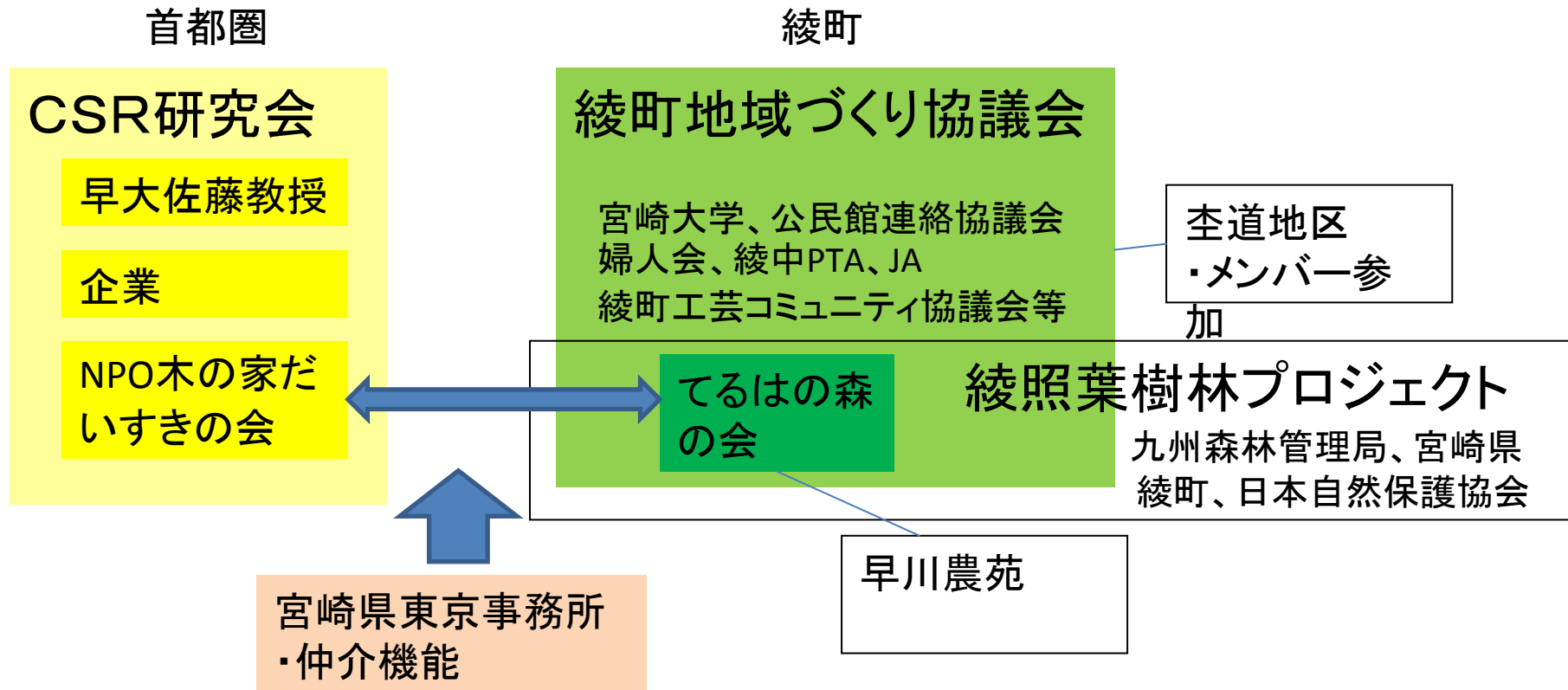
企業CSR関係者、旅行会社

早稲田大学都市・地域研究所

NPO木の家だいきの会

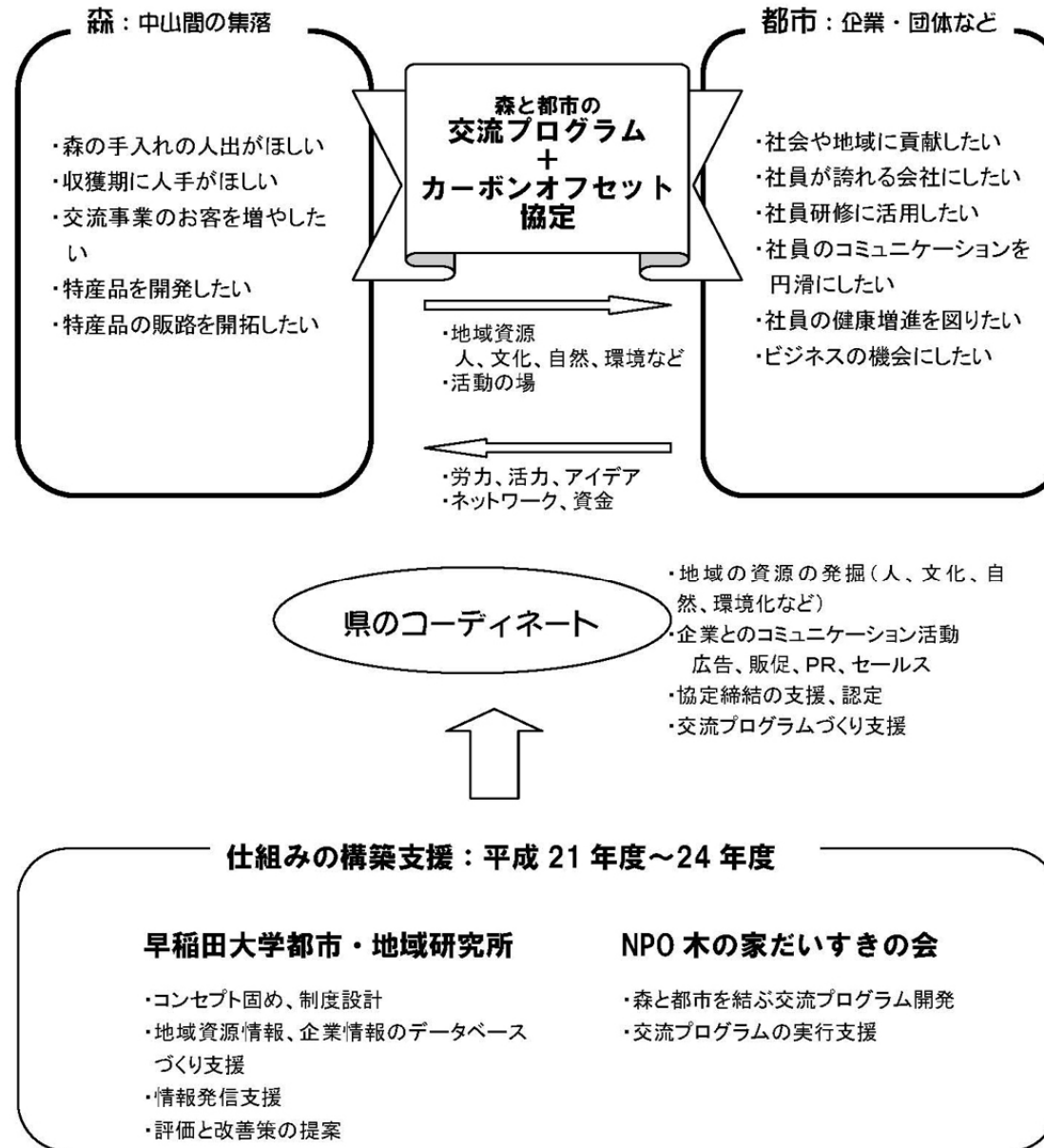
新たな公=協働の仕組みづくり

● 今回の実験交流事業のパートナーシップ



継続可能な仕組みをどうつくるのか？ → 事業性と公共性の追及

宮崎県・中間支援機能の構築の提案



2. 交流事業の展開イメージ 日南市北郷町



下草刈り



森づくり活動

森づくり活動

◆企業の森づくり活動

- ・間伐、下草刈り、植林活動

◆企業主催の環境教育活動

地域の子供たちを対象にした活動

- ・森の土と水を学ぶ
- ・ネイチャーゲーム
- ・森づくり活動
- ・企業独自プログラム

+

◆企業の地域交流活動

従業員及びその家族を対象とした活動

- ・森林セラピー：ノルディックウォーキング、コケロード散策、森林ヨーガ
- ・里山生活体験：パン焼き、竹細工、燻製づくり
- ・収穫体験：いちご狩り

地域交流活動



農園ピクニック(パン焼き、竹細工、燻製づくり、収穫体験)



ノルディックウォーキング



コケロード散策



森林ヨーガ



北郷いちご狩り

「企業の森」と「地域交流プログラム」の連携

平成22年度 山村再生プラン助成

